

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和3年4月21日

事業所名 鳥取県看護協会ナースングデイこすもす

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	0%	70%	30%	・1人につき6.3㎡のスペースをとっているが、新型コロナウイルス感染対策として2m以上の間隔をとるよう努めているので、狭いと感じている職員もいた。
	2	職員の配置数は適切である	10%	50%	30%	・人員配置基準の利用者1.5人に対し職員1人の基準は適切である。ただ、送迎が重複した場合など職員が少なく感じることもある。(1名無回答)
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	90%	10%	0%	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	0%	80%	20%	・毎月1回、こすもす会議を開催し問題の共有、改善策を話し合い実践している。時間を有効に活用し短時間でも振り返りまで行うようにしていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	0%	60%	40%	・この度このアンケートが初回となる。今後も1年に1回調査を行い業務改善につなげていく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	10%	50%	40%	・この度のアンケートが初回となる。ホームページで公表する予定。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	20%	60%	20%	・感染対策が適切であるか、感染管理の認定看護師を招き、実地指導を受けた。所内の感染対策を強化した。今後も継続していく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	50%	40%	10%	・所内で必要となる資格取得には積極的に参加している。その他にも、研修には参加できるようZoom対応のパソコンを設置するなど環境を整えている。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	10%	90%	0%	・契約時や初回利用時などに本人を交え、保護者からの聞き取りの中で必要と思われる支援を計画に盛り込むようにしている。今後はさらに保護者からの意向を盛り込みながら立案していく。

適切な支援の提供	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	0%	70%	30%	・開所時に使用していたアセスメントシートは情報収集が主で、そこから問題抽出、計画立案をすることが難しいので、変更することも検討したい。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	10%	0%	90%	・保育士を中心にして四季に合わせた行事やイベントを行っていく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	0%	60%	40%	・放課後の短時間の中、入浴、注入をしているとそれだけで帰りの時間になってしまい、なかなかさまざまな活動を行うことは難しい。長期休暇時を主に活動を行っていく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	10%	60%	30%	・平日は入浴と注入をするだけで終わってしまうので、長期休暇時は水遊びやシャボン玉、ボーリングなどの活動をしている。今後も長期休暇時に個々に合わせた支援の設定を継続していく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	0%	70%	30%	・一緒に絵本を見たり、音楽を聴いたり、個別ではリハビリを受けたりしている。リハビリに関しては理学療法士を中心に計画立案していく。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	10%	60%	30%	・朝礼で本日の利用者の確認等を行っているが、放課後等デイサービス以外に2事業を展開しているため、朝礼時間帯には送迎に出発している職員や運番勤務者もあり、職員全員が揃って確認することができない。そのため、業務日誌の活用、業務分担表の確認、必要時連絡用ホワイトボードに記入し職員で共有できるようにしている。 ・医療的ケアの確認は看護職員だけで短時間打合せを行うようにしている。連絡帳以外に、看護師記録用紙を作成している。今後も記録用紙の活用徹底を継続していく。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	10%	30%	60%	・業務終了時に振り返りは行えていなかったため、終礼をし情報共有を図るようにした。伝達事項は業務日誌に記入する、翌日の朝礼で伝えるなどしている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	0%	70%	30%	・連絡帳のみの記録となっている。前述したように看護師用記録用紙があるので、活用していく。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	20%	70%	10%	・受持ちチームで見直しの時期を決めて計画の見直しをするようにしている。適切な時期に検討できるよう職員全員で確認する。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	0%	70%	30%	・職員全員で熟読し話し合いを行いながら今後は検討していく。
20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	60%	40%	0%	・受持ちの職員かサービス管理責任者もしくは所長が参加している。	

21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	30%	70%	0%	・送迎時に学校での様子を必ず聞くようにし、帰所後に他職員に伝達している。 ・必要時、学校での緊急時の対応方法などオンラインで検討会も行った。今後も積極的に参加していく。
22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	60%	40%	0%	・事業所独自の医療的ケアに関わる指示書を主治医にもらい、それに沿って支援している。指示書は毎年取り直しをする。
23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	0%	80%	20%	・そのような機会に遭遇したことがないが、必要な時は連携をとっていく。
24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	40%	50%	10%	・当事業所内での移行の方しか経験をしていないが、今後そのような場合があれば連携をとっていく。
25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	10%	70%	20%	・対象の方があれば行っていく。
26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0%	30%	70%	・コロナ禍でできないが、状況が許すようになれば交流を図っていく。
27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	20%	20%	60%	・管理者、相談支援専門員は参加している。
28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	30%	70%	0%	・送迎時、デイでの様子をお話している。連絡帳も利用し伝達している。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	0%	70%	30%	・デイ利用時に感じたことや、家での様子や関りなどを聞き、よりよい支援の方法を一緒に探し出すなどを行うようにしている。ペアレントトレーニングについては今後は職員全員で学習していく。
30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	20%	60%	20%	・契約時に契約者が行っている。
31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	10%	90%	0%	・個人で対応できないことは、職員間で話をするなどして対応するように努めている。
32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0%	60%	40%	・コロナ禍でできない。落ち着けば、何か企画したいと考えている。

保護者への説明責任等	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	70%	30%	0%	・全員に共有し検討、体制の見直しを行っている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	20%	30%	50%	・定期的な会報は発行できていない。今後は年に4回程度のおたよりの発行や毎月1回程度のホームページの更新を行っていきたい。
	35	個人情報に十分注意している	80%	20%	0%	・写真の利用については保護者アンケートをとり利用してもよい方のみ利用させていただいている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	60%	30%	10%	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0%	40%	60%	・コロナ禍でできていない。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	40%	50%	10%	・適宜見直し、修正を行いながら策定しているが、保護者には周知できていない。今後はホームページを活用し周知していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	60%	30%	10%	・マニュアルの作成、見直しを行っている。 ・1年に2回看護協会全体の避難訓練を行っている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	30%	40%	30%	・虐待防止の研修には参加していない。令和3年度は研修を行う。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	20%	60%	20%	・対象の利用児がいない
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	40%	40%	20%	・当事業所では食事の提供はしていないが、指示書での確認はしている。
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	80%	0%	20%	・ヒヤリハット記載し振り返りを行い、その都度解決策を検討している。	